

第10期 松戸市緑推進委員会

第5回委員会議事要録

1. 日時 平成31年1月25日(金) 10:00~12:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡 考・木下 剛・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男
真嶋好博・石川静枝・上野義介・高橋 節・森 令子・横山 元

○松戸市

福田勝彦 (街づくり部長)
田辺久人 (公園緑地課長)
布施 優 (21世紀の森と広場管理事務所長)
米澤和宏 (松戸みどりと花の基金事務局長)
木原 茂 (公園緑地課補佐)
岡田 隆 (21世紀の森と広場管理事務所補佐)
中野貴弘 (松戸みどりと花の基金補佐)

○兼事務局(みどりと花の課)

岸 秀一(課長)・三末容央(専門監)・稲吉かなえ(主査)・井上毅(主任主事)
和宇慶さやか(主任技師)

○LAU 公共施設研究所(松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野・吉岡

○傍聴 2人

※ 事務局より本委員会の成立について、委員14名中12名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 前回委員会の議事要録の確認について
- 2) 緑の基本計画策定について
- 3) 第8回オープンフォレスト in 松戸の後援について
- 4) その他

1 連絡事項等

1 閉会

■議事

会長

ただ今より第 5 回松戸市緑推進委員会を開催いたします。会議の傍聴について、事務局の報告を求めます。

事務局

本日 2 名の方から傍聴の申し出がありましたので、「松戸市緑推進委員会の組織及び運営に関する規則」の規定により、許可いたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

会長

2 名の傍聴希望の方がいるといるとのことです。傍聴を許可してよろしいか。

— 了承 —

議事 1) 前回委員会の議事要録の確認について

会長

事務局から事前に送付した議事要録に修正事項等はあるか。
訂正事項等が無いようなので議事要録として承認する。

議事 2) 緑の基本計画策定について

会長

次の緑の基本計画策定について事務局の説明を求める。

事務局

資料 1 のスケジュール表には来年度以降のスケジュールも加えている。

本年度の「緑の基本計画」の作業は、骨子の作成まで行い、来年度は 3 月までに素案の作成まで行う予定。その後関連計画との整合、議会への説明等を経て、平成 32 年夏頃にパブリックコメントを予定している。現在松戸市では都市計画マスタープランの策定作業もほぼ同じタイミングで動いており、計画の性格上そのタイミングに合わせることから当初予定より遅くなる見込み。

今年度の委員会は今日を含めあと 2 回の開催となる。

1. 「市民アンケートの報告（速報）」について

資料 2 は市内の 18 歳以上、無作為 3,000 名を対象とし、アンケート用紙を送付し、約 770 名から回答。（回収率：約 26%）本日は速報値として報告する。

2. 「みどりのサロン部会の報告」

サロン部会では、市民アンケート以外に、市民の意見、特に緑の市民活動団体や、子育て支援の団体からの意見をどのように聴くかの検討を行っている。1 月 18 日金曜日に 3 回目の会議を実施しており、その報告として**資料 3** の「活動団体別のアンケート用紙」を提示する。

3. 「基本計画の骨子案」

資料 4 の説明をした上で、委員の意見等を頂きたい。

会長

策定スケジュールについての意見はないか。

— なし —

会長

パブリックコメントの戻りは次期委員会になってからだが、素案まではしっかりと考えたい。

＜市民アンケート調査について＞

LAU

2018 年 11 月～12 月の期間でアンケート調査を行った。

資料 2-1 がアンケート結果の速報版となっている。

調査概要は「・調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）・調査対象：満 18 歳以上の市民 3,000 人（ランダムサンプリング）・回収数・回収率（2019 年 1 月 25 日現在）：770 票（回収率 25.7%）・集計方法：設問ごとに未回答、無効回答を除いて集計」となっている。

回答をいただいた方の属性の特徴として、「女性の回答比率約 60%、50 歳代以上が多く 70～80 歳代（21.5%）が最多、子どものいない世帯が多い、居住年数は 20 年以上の居住者が多い、勤務地は松戸市内 46.1%、都内 31.8%」となっている。

興味深いところでは、

- ・「近所で大切にしたいみどりは？」の回答では、「公園」「街路樹」が突出していた。
- ・「近所の公園利用頻度は？」の回答では「年に数回利用」「利用しない」の割合が 6 割弱を占めていた。
- ・「みどりの市民活動の認知度」は全体的に低い。
- ・「年代別のみどりとの関わり」では、多くの年代で「緑や花を見ながら散歩している」との回答があったが、18～30 歳未満では「関わりは特にならない」の回答が多く、今後の課題と思われる。
- ・「年代別、参加しているみどりに関する活動」では 30～40 歳未満の公園でのイベント参加が多くなっている。

資料 2-2 は自由意見を書き出している。一部を紹介すると、

- ・松戸市全体についての意見は、「みどりが多い」「公園が多い」とプラス評価が多い。一方で「みどりが少ない」「空気が悪い」「真剣に緑のまちづくりをしてほしい」の意見もあった。
- ・今後の方向は、「ワンランク上の街づくりをしてほしい」「おしゃれな街づくりをしてほしい」「みどりが洗練された街になるようにしてほしい」の意見。
- ・公園と街路樹に関する意見が多く、公園については、好意的なものより「子どもが思い切り遊べる公園・広場や空き地が必要」「場所の取り合いや気兼ねをして遊びにくい」「ボール遊びができない公園がある」という意見があった。街路樹については、「大木や老木はそのまま」という意見に対し「全体的に枝が伸びすぎ」「伐採が荒っぽい」「落葉による排水溝の詰まり」などを踏まえ、「古木から若木への早い植え変えの要望」の意見があった。薬剤散布に関しての意見も多かった。
- ・他では、「アンケートによりこのような取り組みや、みどりと花の課があることをはじめて知った。」という方もいた。
- ・「農地」「市民意識」「矢切の物流センター」「団地のみどり」「江戸川河川」の意見もあった。
- ・21 世紀の森と広場については、「魅力づくり」「ルールの見直し」の意見があった。

会長

自由回答が多いことや、そのうち 300 近くあるいはそれ以上がしっかりと長文回答で書かれていることに驚いている。大学の研究で行うアンケートでもここまで多くはない。この自由回答を統計的あるいは内容を仕分け整理することが必要かと思う。これは速報値で若干数値が前後することがあり得る。今回は年代別のクロス集計を行ったが、住居場所の回答もあるので、地域別や子供の有無等、今後詳細なクロス集計をすればいろいろなことが分りそうだ。

意見・感想はないか。

委員

資料 2-1 みどりの量について、「緑の基本計画」改定版の策定時にも「松戸のみどりをどう思うか」についてアンケートを行ったと思うが、今回と比較すると印象はどれほど変化しているか。参考になるものがあれば比較したい。

会長

「緑の基本計画」にあるデータは「総合計画」の時に大まかに聞いたものであり、今回の突っ込んだ質問とは比較の参考にならないかもしれない。

委員

突っ込み感があるフリーアンサーをどう反映させるか、今後の指針作りにどう役立てていいのか、「嬉しさ」と「役に立ちそうだ」と思う反面「疎かにできないのではないか」という実感を抱いた。

会長

フリーアンサーをうまくまとめ、どのように使うかアイデアはないか。一つ一つ丁寧に見ていくか。統計的な手法で全体を見るか。

委員

ひとつの記述に含まれる「良い評価」と「悪い評価」大まかに数値化する方法はどうか。

委員

自由回答は非常にローカルな意見と松戸市一般の意見が入り混じっており、アンケート調査と矛盾するものが出てきているので見極めの必要がある。

アンケートで意外だったことは、「みどりと暮らす豊かさの実感や期待度」について「生き物の生息地」「地域の歴史や文化の醸成」「花・野菜・果物の栽培や収穫の楽しみ」は実感も低いのに期待度も低い。一方で「地元の野菜や果物の入手」「自然とのふれあい」の位置をどう読み取るか。「生き物の生息地」は期待されていないのか、一方で松戸市には災害が少ないものの、昨今の傾向を反映しているのか「災害」「雨水」「暑熱緩和」について期待が高いが、これをどう判断し施策につなげていくか判断が難しい。

街路樹の評価の高さに感心した。近年街路樹は予算上短く伐採され、見た目や景観的评价を落としているが、松戸は美しく景観が保たれ木陰の提供の評価が高いことは大切。これが確保されていれば街中を歩くことに繋がるので「緑の基本計画」において大事にしたい。

会長

クロス集計では、実感度が高いものは期待度も高い傾向（右肩上がり）にある。実感できていないものは期待まで考えられない。

「災害」の実感度については、アンケートを実施した去年は災害が多く、洪水や避難場所についての情報が反映されていると考えられる。

街路樹については、街路樹の近くに住んでいる人のネガティブな評価と離れた場所に住んでいる人のポジティブな評価で2種類の調査結果の回答にギャップが生まれているかもしれない。

委員

感想として、回答率に違いはあるが全ての世代に「子どもと自然とのふれあい」がある。「年代別のみどりととの関わり」で、若い世代のみどりととの関わりが「特にない」という結果が出てることが気になる。「緑の基本計画」から抜粋した「松戸市はみどりに関してこんなことをやっている。」を冊子にしたようなものを小学校に配布できればいい。

会長

出前講座はどうか。

事務局

出前講座はあるが件数は少ない。

委員

A3用紙1枚くらいで、細かな計画でなく、この中で暮らしていると感じられる身近なことをアピールする。幼児・小学生の時に何となく目にしていたものは後年になって思い出す。

会長

プロモーションを進める一つと捉えられる。若い人の認知度は低く、「年代別の施策や市民活動の認知度」では40歳未満の部分がひときわ小さく、みどりのことをあまり知らない世代となっている。この課題をどうしていくか。「今後の取り組みで大切なこと」は、どの世代においても子どもに関する回答が多いことがポイントとなってくる。アンケート結果については3月の委員会に確定版を示せると思う。

<みどりのサロン部会の報告>**事務局**

1月18日金曜日に、6名の委員の出席をいただき、3回目の会議を行った。

部会の目的が「里山や花壇など、みどりの活動をしている団体」や「みどり・公園を利用している子育て関係の団体」等からの意見を聞くこと」となっており、第一段階では「里やま活動団体」「花壇活動団体」「公園清掃等の団体」へアンケートを実施しようということになった。

資料 3-1、-2 は「里やま活動団体」と「花壇づくり団体」に向けてのアンケート用紙になる。概ね同じような設問となっており、こちらから団体に聞きたいことは、「活動をしていることによって地域にどんな変化や反応があったか」また「それによって自分たちは何か意識が変わったのか」という地域への貢献についての設問や、「活動を継続している理由」や「活動継続にあたりどんな課題があるのか」、「継続に向けて何か取り組んでいることはあるのか」というような、活動継続についての設問、また、市民力のネットワークを形成していきたいという観点から、活動団体や利用団体との連携についての設問、やりがいや、緑の街づくりのPRの観点から、自分たちの活動をどのように外に発信していきたいかの設問、最後に行政への自由意見という構成になっている。

資料 3-3 は公園緑地課の所管で、地域の公園における清掃や草刈りを行っている「公園清掃等の団体」に向けてのアンケート用紙になる。こちらについてはまだ(案)であり、これから公園緑地課と調整する。

公園清掃等の団体は、先の里やまや花壇の活動と比べて、緑そのものとの関係が希薄であることが予想できるので、若干設問が変わっている。聞きたいところとしては、「活動を続けている理由や課題」、「清掃以外での公園との関わり方」、「今の公園は禁止事項が多くなっている、そのあたりの考え方」、また改正された都市公園法では公園の運営について協議会が設置可能となったので、そのあたりの考え方、最後に自由意見という設問になっている。

委員からも補足等をお願いしたい。

委員

このアンケート調査だけで完結するわけではない。印象の把握や記述部分から細かい部分を捉える。里やま応援団の連絡会において、策定中の「緑の基本計画」の進捗状況やどこに目をつけているかの説明を受けたいとの意見があり、サロン部会に出席し意見を述べる方法もある。サロン部会としては意見を聞く場をつくることも考えている。

会長

それぞれの団体数はどれだけか。

委員

里やまではオープンフォレストに参加している団体が18団体。他にも「緑のネットワークまつど」もある。

委員

花壇活動をしている団体は約100団体ある。

公園緑地課

公園清掃団体は約110団体ある。

会長

この調査は市民アンケートとは趣旨が異なり、市民力を謳った松戸のみどり推進を踏まえ、市民力の主体として実際活動している人の意見を聞くため「みどりのサロン部会」を設置し検討している。アンケート用紙は配付したのか。

委員

まだ配付はしていない。里やま応援団へは2月初めの定例会のみどりと花の課が配付する。中身に多少の不備不測があってもなるべく早めにやりたい。不足等指摘をいただきたい。

委員

地主が何を考えているかを尋ねなくてよいのか。緑地（農地を含む）や社寺、事業所がみどりをどう考えているのか。

委員

それは前回の委員会で指摘を受け、フィールドの提供をしている山林所有者、ふるさと森の会の会員、関係している地権者、事業所、松戸みどりと花の基金の法人会員、千葉大学の活動団体を対象にして現在検討している。

会長

松戸市の協力を得て、自身の研究室で保護樹林の所有者に対してアンケートを行ったことがあるが、その結果や周辺のデータは提示できる。行政でもピンポイントではなくとも他にアンケートを行っているのではないか。

事務局

「松戸ふるさと森の会」でアンケートを実施したことがある。

委員

ふるさと森の会の山林所有者には行ったが、フィールド提供の地権者のデータがほしい。

会長

委員から、サロン部会設置のこの機会に意見交換の場を設けたいとの発言があり、その方向で進めていきたい。

委員

市民アンケートのクロス集計について、例えば「みどりの役割について」は里やま活動の認知度や樹林地の注目度が低いのに、後には期待度が非常に高くなっているのは、回答者がアンケートの設問項目によって気づいているようで、教育材料として使っていける。里やまボランティア入門講座でも使える。

事務局

事務局より今後のサロン部会の作業について話をする。

資料1 のスケジュールにあるとおり、里やま団体への依頼を2月4日、公園清掃団体への依頼

を 3 月 13 日、花壇活動の団体への依頼は 4 月 15 日を考えている。アンケートの内容については、今日の意見も参考にして今後サロン部会と事務局で調整し、速やかに各団体へ依頼させていただくことで、了解をいただきたい。委員会においては都度報告する。

会長

アンケート等の進め方は説明のとおりでいいか。

— 了承 —

<計画の骨子案について>

事務局

資料-4 は現段階での骨子案となっている。まだ不十分な部分もあり「たたき台」として説明する。

「骨子案の構成」は、現段階では大きく 4 の項目でまとめている。

最初に 1 として「緑の基本計画の概要」、次に 2 として「計画の基本理念」、3 つ目に「計画の目標」、最後に「緑の施策の体系」となっている。

まず 1 つ目の項目の「緑の基本計画の概要」は、(1) として「緑の基本計画とは」となっている。ここではこの計画は市が定める「緑とオープンスペースに関する総合的な中長期計画」であり、国の都市緑地法、また松戸市の緑の条例においても計画の必要性が位置付けられているものであり、関連計画との整合を図りながら成り立っていることが書かれている。

(2) では「計画策定の目的と改定の背景」が書かれており、現基本計画の目標年次が平成 32 年となっていることから、それまでには新たな計画が必要になることや、まだ現段階では記載が足りない部分があるが、社会情勢の変化、まちづくりの課題等を踏まえ、平成 29 年に関連法の改正があったことから、時代の変化、価値観の変化を踏まえた記述をもう少し追加記載したいと考えている。

(3) は「計画の前提事項」となっている。ここでは①②の計画の区域や期間だけでなく、ひらがなの「みどり」について、あらためて定義が必要と考えている。

(4) として「計画策定の視点」となっているが、どういった視点を持って基本計画をつくっていくか、何にこだわってつくっていくかという記載となっており、とても大事な項目となっている。この「計画策定の視点」については、本緑推進委員会でいただいた皆さまの意見が大きく反映される部分となる。現段階では前の第 9 期委員会からの答申や第 10 期委員会でのご意見を踏まえ記載をしている。視点は 3 つの項目でまとめている。1 つ目が「松戸みどりの市民憲章に示されている“みどりと暮らす豊かさ”が実現した姿を示すこと」、次に「松戸の緑の質を高め、その魅力を内外へ発信すること。」、次に「みどりの市民力の拡充を図り、みどりを活用することで、地域の課題解決につなげること。」となっている。この視点としての項目については、言葉の使い方を含めて精査前の状態となっており、今日これからの議論においても、たくさんのご意見をいただきたい。

最終的には、(3) の「計画の前提事項」と (4) の「計画策定の視点」の間に、編集の仕方によって変わってくることもあるが、まだ記載がなされていない事項として、「緑の機能」や「松戸市の緑の現況」、「市民アンケート結果から見えてくる意識や課題」などが入り込んでくると考えている。

これらを受けて、次の大きな項目 2 の「計画の基本理念」を掲げることになる。松戸市には平成 16 年に制定された「松戸みどりの市民憲章」という、これからの時代も決して色褪せない市民憲章がある。あらためてこの市民憲章を掲げることと合わせ、これまでの本市のみどりの大

きな実績でもある「みどりの市民力」を、この理念を推し進める力として記載をしている。大きな項目3は「計画の目標」となっている。(1)の「緑の将来像」については、ここで示している内容が、第10期の委員会でここまで多くの時間を割いている部分となっている。前回の委員会でも資料を提示した中でご意見をいただいたが、ここでは「みどりと暮らす豊かさ」を緑の将来像として目に見える、また言葉でイメージが掴めるように作り込みたいと考えている。松戸市が目指す姿を文章で書き込み、画像でイメージが掴みやすくしている。ただここに掲載している画像は既に本市で実現させているものだけなので、不足等はイラスト等も使い工夫しようと思っている。

(2)は「計画の基本方針」となっており、(1)でつくった「緑の将来像」に向けてどういった切り口で方針を打ち出していくのかをここで記載することになる。現段階では大きく4つに分けている。基本方針1として「暮らしの基盤となる緑を守り、つくる」、基本方針2として「市民や子どもたちが楽しめる緑とオープンスペースをつくる」、基本方針3として「みどりの市民力を強め、広げる」、基本方針4として「みどりを楽しむ意識を育てる」となっている。

方針1の「暮らしの基盤となる緑を守り、つくる」は、言い換えると「公園や街路樹、樹林地等を管理すること、公園をはじめその他の緑を整備すること」という緑行政のベースとなっている業務を1つの方針の中で記載することを考えている。

方針2の「市民や子どもたちが楽しめる緑とオープンスペースをつくる」は、ただ公園や緑地を管理して整備するというだけでなく、+αとしてワンランク上のみどり、質の向上をめざし、緑の積極的な活用が見込まれるような内容で一括りにすることを考えている。現状の里やま活動の中で先進的な動きとなっている秋山の森のような取組みであったり、現状で自分たちで花の苗の生産まで行っている花の活動を、もう一步踏み込んで松戸型オープンガーデンのような取組みにつなげたり、財源的な課題もあり新たな公園用地がなかなか確保できない状況の中、農地や未利用地を活用した新たなオープンスペースづくりの取組みだったり、また前回の委員会でのお話にもあったように開発に伴う質の高い緑地創出の取組みだったり、使い方を含めた緑の質の向上に重きを置いて一括りにすることを考えている。

方針の3では「みどりの市民力」にスポットを当てたいと考えている。松戸市は全国レベルでもこれまで先進的に取り組んでいることは皆さまご承知のとおり。ここでは現在の市民力をより強化するために何をしたらいいのか、前回のお話の中では企業との連携が弱いというお話があった。行政にもできることがあるはず。また現在サロン部会の中でも議論しているが、それぞれの活動団体の横のつながり、ネットワークをどうつくっていけばいいのか。このようなことをまとめていくことを考えている。

方針4は、今は「みどりを楽しむ意識を育てる」となっているが、「みどりを楽しむ・使い込む」といったニュアンスの言葉を使いたいと思っている。方針3の「市民力」、そのタネは緑を楽しむこと、触れることから芽を出します。それをひっくるめて「緑を使い込むこと」をここで示せればと思っている。例えば、前回の資料で提示した岡山市でつくった「外遊びノート」のような題材だったり、現在集計中である「市民アンケート」の設問に「市内で次世代に残したい緑はどこですか」という設問があるが、その結果から導いた緑をつなげて「緑の散歩道」を提案したり、こうした内容の最後に大きなテーマになっている「外から見える松戸市を意識したみどりのシティプロモーション」を如何に進めていくかという内容を盛り込みたいと考えている。

3月までの骨子ではあまり深く掘り下げた内容にはならないが、大方このような方針と構成を考えている。

(3)は目標の水準(計画の推進の目安)とあるが、目標の達成度合いを測る数字をどのように設定しようかという内容。この項目についてはまだ内部でも十分な議論が行われておらず、説明は省く。緑の将来像の図も同様。

大きな項目の4つ目は「緑の施策の体系」となっている。これは「計画の基本方針」に現段階で想定できる施策をはめ込んで、わかりやすくしているもの。先の説明と重複するので、説明は省くが、骨子の段階ではこの体系において施策までぶら下げるのは難しいと思っている。

会長

骨子はいくまでもたたき台として、今回と次回で検討する。アンケートや空間的分析を含めた計画の課題の抽出をすることになるので細部は動く可能性があるが、概ねこの枠組みで検討を始める。

委員

前回の委員会でも言ったが、子どもが自然とふれ合える公園づくりができるのかという不安があるが、**施策の体系 2-2 魅力ある公園づくり**の**魅力**とは何か。人それぞれに感じる魅力があり、どこに重点を置くかで公園の様子が変わってくる。子どもの頃から神代植物公園に親しんできたが、都知事の交代で公園が変わることを実感してきた。21世紀の森と広場も随分変わった。市が公園をどのようにしたいか分からないが、アンケートの回答に子供たちに自然とのふれあいを大切にしたいという項目もあるので大事にしてほしい。自然が守られていると感じていた野草園が刈込の時期なのかあまりにきれいになりすぎていることに驚いた。いつまでも持続して自然が守られている公園の整備をしていけば環境は守られる。近隣の小さな公園は防犯目的もあり樹木の枝の伐採は仕方がないが、21世紀の森と広場は開園時間が決まっていて園内の安全面が管理されており、刈込の必要性は低いのではないかと。

委員

今の意見にも関連するが、**基本方針 2**でワンランク上、質の向上、活用を通じてとの説明があったが、「本来の自然を活用した」や「生き物」が抜けている。非常に大切なことなので言葉として入れた方が良い。「自然遊び」の質の向上もある。同様にアンケートの上位にあった水の循環、災害、暑熱緩和も直接利用には結びつかないがワンランク上のみどりとなる。

会長

「環境への配慮」や「生き物」については、大きなところでしっかりと位置付けたい。

委員

前回までの基本方針では樹林地は基本的に全面保全で、それを段階的に制度づくりをしながらやっていくということだったが、今回もベースの考え方は変わらないのか。また、緑被率では農地の減少が一番大きいですが、その保全はどのような考え方・概念で行くのか。前は11地区それぞれの方向性が書かれていたが、今回はどうなるのか。生物多様性についてはどうか。

事務局

樹林地も農地も基本的には守っていく方向性は動かないと考えている。今回の基本計画では地区別に計画を示す予定はない。ただし地区別の課題は整理する必要があると考える。

生物多様性は環境政策課の所管となっており、「緑の基本計画」と重複するところもあり、今後環境政策課と調整し方向性を検討していきたい。

委員

生物多様性地域戦略をどうするかではなく、委員の提案にあったように在来の自然をベースに生物多様性を確保しながらレベルアップする書き方もあるのではないかと。

会長

生物多様性地域戦略は自治体によって扱いが違っている。独立した計画として位置付けている自治体だけでなく、「緑の基本計画」に位置付けているところや、環境基本計画の中の一部として位置付けているところもある。松戸市にはその動きはないようだが、先の意見の在来の自然や生物を重要視して「緑の基本計画」に入れていくかはこれからの課題。例えば、計画の課題はまだ空欄で空間の評価も未着手なので、これからの議論にもよるが、今の自然状況を整理して反映させることに若干の可能性はある。

委員

松戸市はこれまで開発が進み緑の減少が進んできた。今後も開発が計画されているようだが、緑のコントロールをするための仕組みをつくった方が良い。

事務局

松戸市では、松戸駅周辺に「新拠点ゾーン整備基本構想」があるが、「残すみどりや新たにつくるみどり」についての考え方は「緑の基本計画」に記載するつもりだ。

委員

最近できた松戸市総合医療センターの周辺には空き地が多いが植栽されていないところが多い。公共施設でさえそのような状況であり、ワンランク上の緑化を目指すのであれば付加したい。

会長

この意見は前回もあったが、「緑の基本計画」にしっかりと位置付けていきたい。

委員

基本方針に **松戸駅周辺の緑づくり** が記載されているが、相模台公園等の松戸駅周辺の話はどこまで進んでいるのか、分かるところまで状況を聞きたい。

街づくり部長

相模台の新拠点まちづくり構想については、昨年末に「新拠点ゾーン整備基本構想」ができ、方向性は出ている。指摘の場所にはヒマラヤスギの大木などの重要な緑資源があることは承知しており、それらを尊重していく方向性はあるが、まだ土地利用計画等、検討中の部分もあり外には出していない。議会にも示していないので HP 上にも公表していない。

事務局

事務局では担当の街づくり課とも連携を取っており、「緑の基本計画」を策定することについても了解している。提示可能な情報は提示していく。

委員

計画の基本方針の確認として、基本方針 1~4 の位置付けは、例えば基本方針 1 は商品開発やサービスにおける必要条件（食品開発におけるベースとなるおいしさや安全安心）、基本方針 2 は付加価値（商品販売における機能性の PR など）基本方針 3、4 は松戸市の特徴である市民力をキーワードとした上で、基本方針 3 は既活動者のリピーター戦略の位置付け、基本方針 4 はみどりの意識の弱い新しい 20~30 代を獲得するための戦略を考える。というフレームと理解してよいか。

提案として、これから最も重要な議論は **基本方針 2 のワンランク上のみどり** となると考えられるが、ターゲティング（どんな顧客層に使ってもらいたいのか決めること）をしっかりと決めて議論をしていくことが大切であり、「子ども」「20~30 代のみどりに関心が希薄な人」「みどり大好きな中高齢者」のセグメント（区分け）に対しどのようなみどりを提供していくかの切り口を意識しないと、曖昧なものになる恐れがある。

事務局

基本方針3.4についてはその通りと考えている。基本方針1.2のイメージと細部は事務局でも明確になっていないが、ワンランク上の付加価値や機能性の意見は当然その方向に向かうと考えられる。また基本方針1.2は「緑の基本計画」を見せることを意識して分けている側面もある。ターゲットングについての検討はまだしていないが、必要性は理解している。

委員

次年度以降の具体的な施策を考えるときにはセグメンテーション（条件を持たせ区分けすること）の考え方を意識した方が良い。

会長

これまで、どのようにプロモーションしていくか検討を行っていたが、マーケティング目線の考え方によって整理された意見は非常に分かり易かった。

他自治体の基本方針は「まもる」「つくる」「そだてる」の3つに「整備系」「保全系」「市民参加系」をぶら下げたものが典型的なパターンだが、今回の提案は位置付けが明確になり、市民力が含まれオリジナリティーのある基本方針の立て方だと思う。

委員

骨子案の中に使われている「子どもたち」という言葉が気になる。「子どもたち」と一括りにしないで、年齢別の区分けが必要ではないか。それがないと具体的な取組に繋がっていかない。今後の議論を行う上で「子どもたち」の捉え方を共有したい。

事務局

肝心なところだと思う。今後委員からもご意見をいただき整理していきたい。

会長

時間の都合もあり、基本計画についてはここまでとするが、他に意見があれば後日でもいいので事務局にいただきたい。

今回は、市民アンケートの結果や本日の意見等も踏まえ、計画の骨子を整理し提示する。

計画の課題となるリアルな空間調査はまだ提示されていない。今後そうした作業も含め、来年一年をかけて計画がつくられていくことになる。

議事3) 第8回オープンフォレスト in 松戸の後援について

事務局

お手元に第8回オープンフォレスト in 松戸のチラシを配布している。来年度のオープンフォレストは4月20日（土）から28日（日）の9日間で行われることになった。昨年より森が1つ増え、市内19箇所の森の公開を予定。

オープンフォレストの開催にあたっては、毎年、本緑推進委員会が後援をしているので、今回も後援することのご承認をお願いしたい。

会長

1回～7回まで緑推進委員会で後援をしてきたが、今回も後援することを承認するか。

— 了承 —

会長

これまで7回開催し新聞等でも広報してきたが、市民アンケートの調査結果ではオープンフォレスト in 松戸の認知度（内容を知っている・聞いたことがある）は20%以下だった。是非多くの人に知らせていただきたい。

その他連絡事項等

公園緑地課

<第 27 回マグノリアコンサート>

- ・開催日時：平成 31 年 2 月 10 日（日） 午後 2 時～
- ・出演：永見智（トロンボーン）、清水初海（ピアノ）の共演

21 世紀の森と広場管理事務所

<和太鼓の公演>

- ・モリヒロフェスタの一環として開催
- ・開催日時：3 月 17 日（日）9 時 30 分から 15 時 30 まで
- ・場所：21 世紀の森と広場 千駄堀池ほとり
- ・平成 27 年より年 1 回開催し 5 回目となった。1 日で約 1 万人が来場。雨天は森のホール（大ホール）にて開催。今回は 21 世紀の森と広場開園 25 周年の連携事業として、森のホールと博物館、管理事務所の 3 つが同時開催する。

<鼓童交流公演>

- ・開催時間：17 時～
- ・森のホール（小ホール）

<企画展 日本の太鼓・世界の太鼓>

- ・開催日時：平成 31 年 3 月 9 日（土）～24 日（日） 9 時 30 分～17 時
- ・場所：松戸市立博物館

松戸みどりと花の基金

<第 30 回緑と花のフェスティバル>

- ・開催：4 月 29 日（月）

委員

<バードウォッチング入門>

- ・講演：平岡委員
- ・主催：三菱商事㈱
- ・開催日時：2019 年 2 月 14 日（木）18：30～20：00
- ・会場：MC FOREST
- ・山階鳥類研究所の職員が年に 1 回講演をしている。東京に勤めている人が、平日夜仕事帰りに聴くことができる。

事務局

次回緑推進委員会は 3 月 27 日（水）午後 3 時から開催する。

会長

以上で第 5 回松戸市緑推進委員会を終了する。

以上